

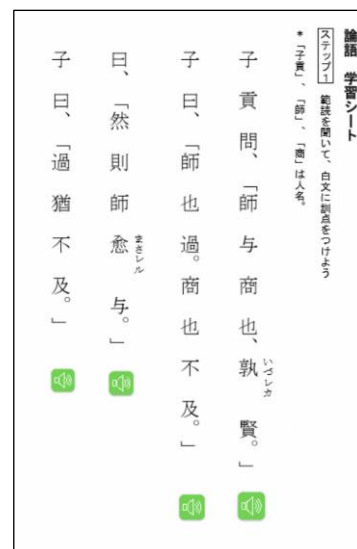
# 令和2年度 国語科 研究内容一覧

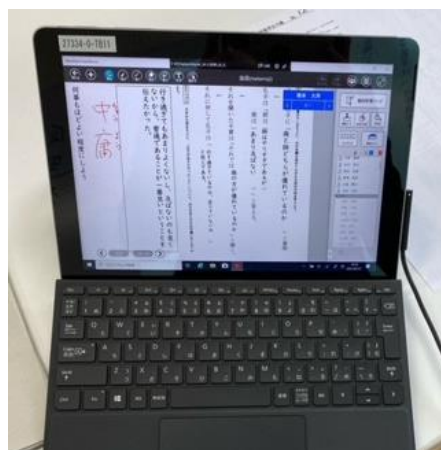
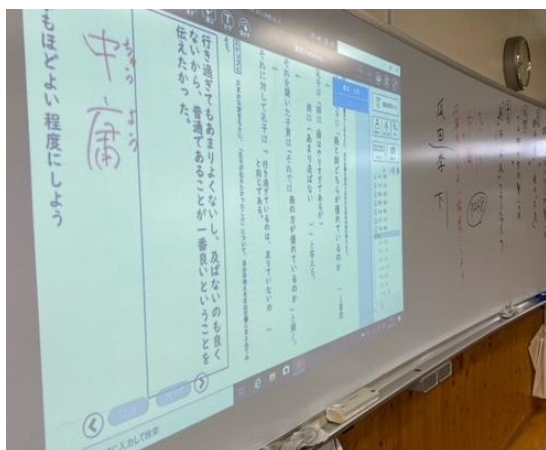
国語科共通テーマ：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

委員	大野 智史（中津高校）
個人テーマ	国語の授業における MetaMoJi の導入場面の検討と実践
個人テーマ 設定理由	学習支援アプリとして MetaMoJi が導入されたが、高校国語科の授業における効果的な活用については、これから実践が進められていく。そのため、まずは MetaMoJi の様々な機能の中で、国語の授業と親和性が高いのはどういった機能なのかを実践しながら模索していきたいと思い、このテーマを設定した。
研究内容	古典の授業における MetaMoJi の活用方法の研究 ・ 知識理解を MetaMoJi で深める方法を考える。 ・ 意見交流の場面での MetaMoJi の使用方法を模索する。 ・ 国語の授業における MetaMoJi ならではの活用方法を模索する。
担当科目	現代文B 3年生 理系3クラス
担当学年	古典B 3年生 文系3クラス、2年生 理系1クラス
成果	下記参照
課題	下記参照

## 【成果】

2年生の古典Bの授業で MetaMoJi を使った授業実践を行った。まだ自分自身も生徒も機器の使用法に慣れていないため、実験的な内容となったが、授業での活用場面を見いだすことができた。MetaMoJi だからこそできることはないかと考え、実践したのが範読を録音する試みである。右の画像にある緑色の部分を押し、事前に録音しておいた教員の範読が再生される。これを各自で聞いて、自分のペースで訓読を行わせた。生徒の能力に応じて聞く回数を調整できるため、ある程度の効果があったと思われる。





また、上の画像のように、生徒の取り組みをリアルタイムでホワイトボードに投影することができるため、課題への取り組み状況や良い意見を瞬時に共有できるというメリットがあった。教員が直接解答を書き込むことはもちろん、間違いやすい部分を指摘して、実際に間違えている生徒のシートを投影し、その場で間違った部分を訂正してもらうことでリアルタイムかつ双方向のやりとりをクラス全体で共有することができるようになった。

#### 【課題】

実際に MetaMoji を使ってみると、（MetaMoji が完全にノートの代用品として浸透すれば解決する部分も多いが）現状では課題が多い。まず、単純に機器の準備に時間がかかる。タブレットの保管庫から全員がタブレットを取り出し、MetaMoji を起動するまでに 10 分近くかかるため、休み時間から準備を始めてもらわないと時間のロスが大きい。

また、学習内容を記録するために MetaMoji と同じワークシートを印刷したが、その影響で MetaMoji 上ではなく、紙のワークシートに記入する生徒も多かった。紙のワークシートに記入してしまうと、取り組み状況が MetaMoji 上で見られないため、MetaMoji 上でチェックするには紙に書いたものを MetaMoji に転記するか、カメラを使って撮影したものを MetaMoji に添付してもらう必要がある。これでは MetaMoji の手軽さが失われてしまうため、MetaMoji を利用しない方が早い、という印象を受けてしまう。

以上のような MetaMoji の課題は、最初に述べたように完全にノートの代用品としてタブレットと MetaMoji が利用されるようになれば解決されると思われる。しかし、そのためには全校での取り組み、教員・生徒両方のタブレットの扱いへの習熟などなど、解決すべき問題が多い。これらの状況がすぐには変わらないので、現在の環境下で今まで通りの授業方法と MetaMoji を併用しつつ、MetaMoji だからこそできることを模索していく必要があると思われる。

科目名 古典B

単元名 思想—儒家

教材名 『過猶不及』（論語）

単元の流れ 過猶不及（論語） 1時間 → 不忍人之心（孟子） 2時間 全3時間の計画

実践した授業の学習指導案

本時の位置	1時間目（全3時間）		
本時の学習目標	ア 本文の範読を聞いて、白文に正しく訓点をつけ、書き下し文を作成できる。（知識・理解） イ 本文を読み、孔子の伝えたいことを読み取る。（読む能力）		
事前の準備	①MetaMoJiのシートを作成する。 ②MetaMoJiのシートと同じ内容のプリントを準備する。		
	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価
導入 5分	□作品の概要と本時の目標の確認	①論語の内容と孔子について簡単に確認する。 ②ワークシートを受け取り、本時の内容を確認する。	・正しい現代語訳よりも、孔子の主張の内容をつかむことを重視するように指示する。
展開 40分	□各自でMetaMoJiのシートを開き、範読を聞いて訓読をする。  □本文のおおまかな内容をとらえる。	③範読を聞いて白文に訓点をつける。 ④訓点をつけた本文をもとに書き下し文を作成する。 ⑤それぞれ作業が終わったら教員のチェックを受ける。  ⑥書き下し文をもとにそれぞれで本文の内容についてワークシートに読み取ったことを記入する。 ⑦MetaMoJiで記入内容を確認する。	・それぞれのペースで必要なだけ範読（録音したもの）を聞くように指示する。  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"><b>目標アに対する評価規準と評価方法</b> 〔規準〕 ・白文に正しく訓点をつけ、正しい書き下し文を作成できる。 〔方法〕 ・観察（ワークシート・MetaMoJi） 〔状況Cの生徒への手立て〕 ・読みが難しい漢字や返読文字を指摘して訓点をつける時のヒントを与える。 ・書き下しの際には助詞、助動詞をひらがなにしよう指示する。</div> ・内容理解はおおまかなものでよいことを意識させる。

	<input type="checkbox"/> 孔子が伝えたかったことについて考える。	<p>⑧孔子はこの話で何を伝えたかったのか、それぞれの意見をワークシートに記入する。</p> <p>⑨MetaMoJiを利用し、それぞれの書いた意見をお互いに確認する。</p>	<p><b>目標イに対する評価規準と評価方法</b></p> <p>[規準]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「過」「不及」も同様に最善の在り方ではなく、そのどちらでもない中庸を善とする孔子の主張を理解できる。</li> </ul> <p>[方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察（机間指導・MetaMoJi）</li> </ul> <p>[状況Cの生徒への手立て]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「過猶不及」の一文に注目させ、必要に応じて現代語訳を伝える。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「過」「不及」がどちらも同じである、という理解で終わらず、何が良いのかという部分まで考えるように意識させる。</li> </ul>
<p>まとめ 5分</p>	<input type="checkbox"/> 本時の内容の振り返り	<p>⑩本時の流れを振り返り、孔子の考える「中庸」という概念について紹介する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・哲学的な難しい議論ではなく、身近な例ともつながる概念であることを伝える。</li> </ul>